を体験交流から学ぶ

岩手県・久慈市

いわて　くじし　こころの体験

白樺ゆれる　琥珀の大地　海女の国でこころの交流を

久慈市は岩手県の北東部に位置し、西は日本一の白樺林や豊かなブナ林が連なり、そこから流れる清水は、リアス式海岸を形成する太平洋に注ぎ、美しい景色を魅せるとともに、おいしい海の幸を育てています。

広大な海と自然豊かな山々、日本短角牛、豊かな伝統食文化、木炭生産、心の通う民泊など、豊かな自然環境と素朴な生活文化、温かな人々のいる久慈市は、山、里、海のさまざまな体験を堪能できます。

また豊かなフィールドと人情味のある指導者のもとでの体験は、安心して心を開く環境を作っており、仲間を尊重し、自己を見つめ、感じたことを素直に表現し合うことができます。こうして新しい自分に気づき、豊かな心を育て、そしてきっと忘れられない体験になることでしょう。

おすすめプログラム

農林漁家民泊体験

数人のグループで農林漁家に泊まり田舎暮らしを体験する民泊体験は、恵まれた自然環境や伝統、文化など、魅力ある地域資源を生かしたさまざまな体験を通じ、心と心の交流を深めることができます。（受け入れ人数＝3～400人）

漁師体験

小型漁船に乗船し「カゴ漁」「刺網漁」を体験します。地元漁師の指導のもと船上から漁の様子を観察し、捕獲した魚は実際にさばくこともできます。

シャワークライミング

指導者のもとで、渓流を歩行で上流へと登っていきます。渓流は淵や瀬、滝など変化に富んでおり、予測できない環境の中を、流れに逆らってゴールを目指すうちに、協力することの大切さを感じられます。

そのほか、総延長6300㍍に及ぶ鍾乳洞の内間木洞窟探検、白亜紀の地層から琥珀を採掘する久慈琥珀採掘体験なども行えます。

心の通う民泊先での料理体験

小型漁船に乗船して漁師体験

渓流を歩行で登るシャワークライミング

内間木洞窟探検

ふるさと体験学習協会
担当者　高橋昭治
営業時間　8：30～17：15

〒028-8030　岩手県久慈市川崎町1-1
TEL 0194-75-3005　FAX 0194-75-3007
URL www.kuji-taiken.jp/

オピニオン

生きる力・心の豊かさを育む体験交流

東日本大震災から2年半が経ち、死者、行方不明者、被災関連死者合わせて2万人を超え、仮設住宅や避難先での生活を余儀なくされている人は今なお約30万人にのぼる。福島第1原発も汚染水の問題が続き終息どころではない。皮肉にも68年前の夏に唯一の戦争被爆国として原爆の恐ろしさを思い知らされたはずの日本が再び放射生物質に苦しめられている。被災地の一刻も早い復興を願うばかりである。

我が国で唯一の地上戦の惨劇に見舞われた沖縄は、普天間移設、オスプレイの配備、ヘリコプターの墜落炎上事故など米軍基地問題が続いている。時と共に体験談を語る被爆者や戦争体験者の高齢化は避けて通れず、生の声が聞ける時間が限られており、ヒロシマ・ナガサキ・オキナワの「今」に価値が高い。忘れても風化させてもいけない平和教育の重要性がさらに高まっている。そして、自然環境やエネルギー教育、震災に対する防災学習などの重要性にもつながっている。

日本の食文化が危うい。ファストフード、コンビニ、冷凍食品に加え、食の欧米化が進み、10年前と比べ米国産や豪州産を中心とする肉のみ9%増となり、魚類24%、果実17%、野菜6%とそれぞれ減少し、米の消費額がパンに負けたのである。日本の農山漁村が生産している物を消費する食文化の再構築なしに日本の未来はない。つまりは、食育、食農、魚食振興が極めて重要なテーマである。

学校教育現場でも、いじめや体罰の問題から不登校や自殺に発展するなどの課題が山積している。その多くの原因はコミュニケーション不足による人間関係構築能力不足である。

スマホでもゲームでもメールでもない生の人間と直接向き合う、農山漁村での体験交流は多くの課題に対応する極めて有効な教育手法である。日本の明日を担う青少年にほんものの体験交流から互いの心を高め、大きくたくましく生きる力を育む教育機会だ。まさに心の平和学習とでも言うべきものである。

この紙面で紹介する地域は安全で教育効果の高いプログラムや農林漁家生活体験（民泊）などのコーディネートをする行政や組織であり、修学旅行はもとより、宿泊研修や校外学習など、あらゆる教育機会に活用してほしい。

全国ほんもの体験ネットワーク　会長
体験教育企画　代表　藤澤安良

新潟県・上越市・十日町市

おかげさまで15周年

越後田舎体験

越後田舎体験として受け入れを始めて15年を迎えました。高いビルも、広い道路も、整備された公園もここにはありません。越後田舎体験にあるものは、ありふれた山と小さな田や畑。人々が協力し合いながら暮らす生活……。

私たちは自然と自然のつながり、自然と人とのつながり、人と人とのつながりを大切に考え、そのさまざまなつながりを暮らしや体験、人との交流の中で、肌や心で感じてもらえるような受け入れを目指しています。

私たちの地域では、民泊（ホームステイ）の受け入れを行っています。民家の方と過ごして体験、交流することで何か感じるものがあるようです。受け入れ協力先の多くはお年寄りです。でもとても元気です。「何かを伝えたい」そう考えて受け入れを行っています。エリア全体で400軒以上の民家の協力を得て、受け入れを行っています。

受け入れのピークは5月や7月中旬ですが、地域の中でローテーションを行い、心に余裕が生まれるよう、楽しみの一つとして受け入れていただけるように工夫しています。

普通の田舎の風景、暮らしの中で、忘れがちな自然への配慮、人への思いやり、生きることの大切さを短い時間の中で伝えていきます。各地域では受け入れのための研修会や反省会、あるいは視察や学校訪問なども実施し、地域の連携を図りながら、自ら楽しんでこの事業に取り組んでいる姿がうかがえます。これからも人と人をつなぐ「越後田舎体験」を目指していきます。

今年度から日本一長い信濃川でのラフティングができるようになりました。激流がないので初心者向けで、安心安全に体験していただけます。

お薦めプログラム

農村生活体験（民泊）

各民家での暮らしを体験し、人への思いやり、生きることの大切さを学びます。民泊（ホームステイ）協力戸数　400戸×3～4人＝約千人

信濃川ラフティング

穏やかな流れで、初心者向けのコースです。

雪国体験

雪を楽しむことも体験の一つです。

米作り

汗を流して米作りを体験し、自然と人の関係や思いやる心を育てます。

漁業体験

地引網・魚のさばき、干ものづくり、乗船。

自然体験

自然の中で美しいもの、優しいもの、厳しいものなどを興味深く観察します。

食体験

地元の素材を利用した田舎料理づくりで、食の大切さを学びます。

地域芸能・文化体験

地域に伝わる芸能や生活文化を体験します。

越後田舎体験の特徴

①日本海の長い海岸線と、米どころ新潟の広い平野、そして棚田やブナ林がある日本の原風景が残る中山間部を持つ越後田舎体験のエリアは、自然・環境・歴史民俗学習の適地です。
②あらゆる体験プログラムは土地の人がインストラクターとしてかかわります。
③企画コーディネート（手配、連絡、調整、精算）は協議会事務局で承ります。
④広域で仲間が連携、協力して受け入れを行います。

漁業体験では魚をさばき干物づくり

地元の食体験としてそば打ちに挑戦

汗を流して米づくり（田植え）体験

春山トレッキング（5月）

越後田舎体験推進協議会
通常営業時間　8：30～17：30（月～金、祭日・年末年始等休み）＊時間外でも電話してみてください

〒942-0411　新潟県上越市安塚区安塚722-3
雪だるま財団内
TEL 025-592-3988　FAX 025-592-3324
E-mail taiken@yukidaruma.or.jp
URL http://www.echigo-inakataiken.jp/

岩手県・三陸海岸

被災地だから「私たちには伝えなければならない責任」があります

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

岩手県田野畑村は、三陸復興国立公園の北部に位置し「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など恵まれた景観の中、住民が漁業や酪農を営む、人口4千人弱の典型的な農山漁村です。

2011年3月11日に村を襲った大津波では、38人の死者行方不明者を出し、住み慣れた家、船や漁港施設、駅や学校など目の前から全てを奪い去りました。しかし、人的な被害が比較的少なかったのは、明治や昭和の大津波から語り継がれた教訓、そして日常の防災への意識や訓練によるものであり、これから先も伝承されていくことでしょう。

この地を訪れる学校の生徒にとって、悲しみや仮設住宅などでの不便な暮らしと向き合いながら生業の再興や復興へと歩む住民のたくましいこの姿は、どのように映り、何をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し、迅速かつ柔軟に対応していくのでしょうか。

生徒自らが「生きる力」を身に付ける必要性を悟り、他の人間と「心の絆」でつながることの大切さについて考え、農山漁村の真の豊かさを五感で感じることができる学びの場所が今ここにあります。

組織と教育訓練

「体験村・たのはたネットワーク」が受け入れコーディネート組織として各種手続きや手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し、迅速かつ柔軟に対応しています。また、各プログラムの指導者や民泊家庭は定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁などとの連携訓練によって安全確保に努めています。

民泊（ホームステイ）

被災後も漁家や農家を中心に85軒の受け入れ家庭があり、約300人の子どもたちと交流が可能です。

宿泊ホテルが復旧再開

350人の収容能力を持つ「ホテル羅賀荘」は12年11月に復旧リニューアルオープン。津波への新たな安全対策を講じるとともに、セレモニーや屋内活動など多目的な活用が可能な交流センターもホテルに隣接整備されました。宿を出るとすぐに体験現場という絶好のロケーションにあり、効率的なプログラムを組むことができます。

【おすすめプログラム】

サッパ船アドベンチャーズ

津波被災から即座に復興を果たし、今や地域観光復興の大きな牽引力として注目されます。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は、漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

郷土料理体験

元気かあちゃんの指導のもと、地元海産物や農産物を生徒が自ら調理して味わいます。食の安全性や大切さに対する意識が高まります。

大津波体験ガイド＆語り部

大震災により被災し仮設住宅などで生活している住民自らが、津波の脅威、当時の記憶や行動、今に至るまでの体験、絆のありがたさなどについて現地を案内しながら語ります。宿での「語り部」やワークショップについても対応可能です。

人気のサッパ船で漁業体験現場

ホテル羅賀荘

民泊家庭での夕食作り

大津波体験ガイド＆語り部

体験村・たのはた教育旅行受入協議会
コーディネート
NPO法人　体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・武井

〒028-8402　岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL 0194-37-1211 FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL http://www.tanohata-taiken.jp/